

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：鎌田陽子
(出雲市立第二中学校)

編集：情報部

VOL.54 2015.8.8 (夏祭り号)

発行責任者 蘿 恵 (川本小学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

爽

SOU

【目次】

- ▶ 「島事研ビジョン2015」及び「第五次研究中期計画」スタート(会長)
- ▶ 島事研ビジョンがリニューアルしました!
- ▶ 島事研事業部の取組
- ▶ 「中国事務研」ってご存知ですか?
- ▶ 浜田教育事務所に勤務して
- ▶ 県大会・セミナー開催のお知らせ
- ▶ 学校から出てみませんか?
- ▶ 人権コーナー
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



「島事研ビジョン2015」及び 「第五次研究中期計画」スタート

会長 鎌田陽子

6月3日に開催した代議員会で承認され、「島事研ビジョン2015」及び「第五次研究中期計画」がスタートします。

「島事研ビジョン2015」では、引き続き、島事研のミッションを「島根の未来を切り拓く子どもたちの豊かな育ちを支援する」としました。

「島事研ビジョン2010」計画期間における取組によって、学校の教育力向上を実現する学校経営、それに必要な学校事務をマネジメントする学校事務職員をめざし、ミッションを遂行しようとする意識が高まってきました。その高まりを受け継ぎ、めざす姿を「学校力向上につながる学びの環境をデザインする学校事務職員」とし、めざす姿に近づくための条件整備を行うことを目標におき活動を進めていきます。

さらに、目標達成に向けての取組を5つの柱とし、各事業部・役員会全体で担い取組を広めたいと考えています。その取組の1つに、広報活動の充実と情報収集・情報発信があります。このたび、事業部の「広報部」を「情報部」に改め、情報収集及び統計調査に関することをこれまでの活動内容に加えしました。また、学校事務職員の研修の充実の取組では、文科省が提案する「チーム学校」を意識した研修体系の整備をあげています。学校事務の研究の取組では、今年度から「第五次研究中期計画」をスタートさせ、研究テーマを「学びの質の向上につながる学校事務の展開～教育活動へのより深い関わりをとおして～」と設定し、これからの学校経営に必要とされる学校事務のあり方について研究を進めていきます。

「チーム学校」「学校力向上」「学びの環境デザイン」などについての考え方の丁寧な説明が必要だと感じています。「情報部」への名称変更についても含め、まず今年度は、理解が深まる取組から始めたいと考えています。

さて、新聞等でも報道されていましたが、自民党の教育再生実行本部が5月12日に公表した第四次提言の中で、事務職員の職名を「学校運営主事」(仮称とのことですが)に改めるとしています。提言に法的拘束力はないものの「主事」という名称は行政職の職名として見た場合低位のイメージがありますが、提言の中には、事務職員の職務内容の明確化や、制度上の事務長としての位置づけ、研修の充実をもって「学校の経営企画機能を飛躍的に強化する」とも明記されています。

このような国レベルの動きは、遠いことではなく、すぐに身近なこととしてやってきます。常に情報へのアンテナをしっかりと立て、島事研活動を進めていきたいと考えています。

島事研ビジョンがリニューアルしました！

しまね
教育ビジョン



島事研ビジョン 2015



全事研
グランドデザイン

島事研のミッション

島根の未来を切り拓く子どもたちの豊かな育ちを支援する

めざす姿

学校力向上につながる **学びの環境をデザインする(※)** 学校事務職員

島事研の目標

「学校力向上につながる学びの環境をデザインする学校事務職員」
をめざした諸条件の整備

目標達成に向けての取組

学校事務の研究

学校事務職員の
研修の充実

広報活動の充実と
情報収集・情報発信

諸機関、諸団体
との連携

目標達成に必要な
諸条件の整備

第五次研究中期計画 研究テーマ

「学びの質の向上につながる学校事務の展開 ～教育活動へのより深い関わりをとおして～」

※ **学びの環境をデザインする**とは、子どもの学びを支える環境を他の教職員等とともに創造することによって、学びの質を高めることです。



デザインするとは、現状を少しでも望ましいものに変えようとするための一連の行為を言います。課題を発見して解決するためのプランを考え実現することなどです。

詳しくは島事研ホームページ <http://www.oh-net.com/~kenjiken/> に掲載しています。
会員の皆さんはぜひ読んでおいてください。

事業部の取組

研究部

研究部長 岡田 由美

～ 第五次研究中期計画、只今下ごしらえ中 ～

「学びの質の向上につながる学校事務の展開 ～教育活動へのより深い関わりをとおして～」というテーマを掲げ、第五次研究中期計画がスタートしました。

今度は、各学校・各地区の実態にあわせながら融通を利かせて取り組むことができるように…という思いでテーマを設定しました。そのため、“抽象的でわかりづらい”という面も持ち合わせているかと思いますが、これからの5年間、自分の学校・児童生徒・地域と向き合い、それぞれの実態にあわせた取組を計画・実行し「学びの質の向上につながる学校事務の展開」を実現させていきたいと思います。



中期計画をスタートさせるにあたり、研究部では、まず2つの実態調査を実施します。



- ① 「わくわく実践ナビ」の追跡調査
- ② 会員の研究に対する関心実態調査

8月中にお手元にお届けする予定です。それぞれの調査の目的については、各地区の理事の皆さんをとおしてお知らせしているとおりです。研究部では調査結果を集計・分析し、今後の研究の推進に役立てていきます。またHP等をとおして会員の皆さんに結果を公表いたします。お忙しいとは思いますが、調査への協力をよろしくお願いいたします。

このように研究部では、まずは会員や島事研、さらにそれらを取り巻く環境の実態や実情を知る、把握する、分析することから始めようと考えています。PDCAサイクルで言えば、P（plan＝計画）のさらに前段階にあたる段階・過程、“下ごしらえ、下準備”にあたるでしょうか？この過程を踏むことで、現状と向き合い、実態に沿った研究につなげていこうと考えています。



この「爽」が発行される頃には、夏休みも中盤を迎えています。会員の皆さんも中期計画のテーマに沿った取組をスタートさせるための“下ごしらえ・下準備”の過程（学校を知る、児童・生徒を知る、地域を知る等）に少しでも時間を使ってみませんか？

さて、研究部では隠岐地区（7/29）、安来地区（8/10）、益田地区（8/24）から依頼をいただき、中期計画推進に必要な活動のひとつとして、中期計画の説明会、また研究発表のお手伝いをさせていただきます。満足していただくことができるかわかりませんが、声をかけていただくことを嬉しく感じています。また研究部からの一方的な説明ではなく、少人数での対話の中からひらめきや学びが生まれていくことを楽しみにしています。

島根県内各地で、児童・生徒の「学びの質の向上につながる学校事務の展開」をゴールに据えた研究がなされ、いろんな形の取組が生まれる、業務改善がなされていく、人と人がつながっていく、前向きな世代交代が進んでいく…そんな5年間にしていくために、研究部では会員の皆さんのお手伝いができるよう活動していきます。

研修部

研修部長 熊谷 美千子

文科省が提案する「チーム学校」では、学校事務職員はマネジメント職員としての機能を発揮して学校の教育力、組織力の向上に努めることが求められています。今後、学校事務職員がチーム学校を推進するための重要な立ち位置となり、自らが新たな役割を提言し、実践していくことが必要となります。そのためには、経験年数に応じたキャリア形成を伴う研修制度の確立が必要です。研修部では、研修の充実に向けて研修体系の整備を行うための取組を行います。

- 任命権者研修への提案
- 研修内容の検証と提案
- 研修制度の確立
- 地教委・事務グループ・学校が連携した研修プログラムの企画、検討
- 島事研研修活動の充実
- 目標・テーマに沿った研究大会、セミナーの内容検討

情報部

情報部長 藤 恵

今年度より「広報部」から「情報部」に名称が変わりました。

活動の内容も、今まで行っていた広報活動の他に、事務職員情報の収集・整備も情報部が担当して行います。また、研究部が発行していた研究部だよりは、広報誌「爽」に併せ掲載して発行します。

「爽」は会員だけでなく教育委員会・教育事務所にも送付し情報発信を行っています。内容も事務職員だけのものにならないよう、関係諸機関の方にも寄稿していただいています。

島事研の活動を皆さんにわかりやすく伝えられるよう、広報誌・ホームページづくりに取り組みたいと思っています。

- 広報誌「爽」の発行
- ホームページの管理・運営
- 事務職員情報の収集・整備
- 全事研調査（5月期・11月期）

『中国事務研』ってご存知ですか？

島事研事務局長 梶岡純子

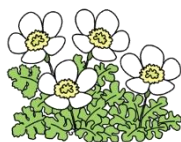
島事研にはいくつかの顔があります。その中のひとつに、『全国公立小中学校事務職員研究会（＝全事研）島根支部』があります。ここを窓口として全国の情報を発信したり、県内に伝達したり、全事研による年2回の事務職員調査にも協力しています。また、年に一度の評議員会や総会に役員を派遣し、会務に参加しています。

そして、もう一つには、『中国地区公立小中学校事務職員研究会』の構成メンバーという顔です。中国五県の事務研がお互いに協力しながら、毎年持ち回りで協議会や、中国地区事務研を開催しています。そして、全事研中国地区の役割として、【地区代表者】【地区副代表者】【全事研総会での議事運営委員】【中国地区大会担当県】を輪番で担当しています。

毎年の中国地区協議会で情報交換をすることで、今自分たちの県の置かれている状況や今後の見通しなど、様々な問題提起を受けて帰ります。

いよいよ今年度は島根県に順番が巡ってまいりました。前回（平成22年度）は、全事研鳥取大会の分科会発表を控え、シンポジウムとして各県から研究状況の報告や、全国大会開催県の鳥取県からの熱いメッセージを感じた大会でした。

会員のみなさまには、1月22日開催の『中国地区公立小中学校事務職員研究大会』兼『島根県学校事務セミナー』へ積極的にご参加いただき、大会を盛り上げてくださいますようお願いいたします。



浜田教育事務所に勤務して

「実りある研修」 浜田教育事務所 黒見正樹

今年の2月につくばでの中央研修を受ける機会がありました。組織マネジメントをメインに濃密な5日間を過ごすことができ自分の視野を広げる貴重な研修でした。

その中の研修での一コマで、ある講師の方から「プレゼンは説明じゃないよ。自分の言いたいことを話すのではなく、相手の知りたいことを話すこと。プレゼンで大事なものは、相手の脳にあるものを使い、相手に記憶させること。だから相手の脳の中を情報編集させることが大事です。」と言われました。

(浜田教育事務所に勤務して、色々な場面で人の前で話すことが多くなりました。話が苦手な私にとって苦勞の連続ですが…)

プレゼンは聞いた相手が次へ行動を起こすための動機付け、次につながるためのステップということです。

この研修以来、自分の言いたいことを話すのではなく、学校現場が知りたい情報を話すように心がけてはいるつもりですが、なかなかうまくはいかないのが現状です。浜田教育事務所の皆さんにはご迷惑をおかけしているところです。

また、聞き手になった場合、聞いたこと、感じたことなどその場で完結するのではなく、次につながるステップや行動が必要となってきます。課題が見つければ批判して終わるのではなく、自分の課題解決をしっかりとめ、時には話し手の方と意見交換をすることも必要だと思います。あるいは時間不足や理解不足の場合は、市郡単位やグループ会にもう一度来てもらって情報交換するなど方法は様々です。また、そうすることによって色々な人との繋がりもできます。

色々な角度から皆さん一人ひとりの手助けとなるよう、また私も手助けしていただきたいと思いますので、管内外を問わずお気軽に声をかけていただければ嬉しいです。

県大会 セミナー 開催の お知らせ

県大会・セミナーを次のとおり
予定しています。
積極的な参加をお願いします。

第46回 島根県公立小中学校事務研究大会

- 大会テーマ 「学びの質の向上につながる学校事務の展開」
～教育活動へのより深い関わりをとおして～
- 期 日 平成27年11月6日(金)
- 会 場 島根県民会館(中ホール)
- 研究発表 隠岐地区 松江地区
- 講 演 (株)野村総合研究所 主任研究員 妹尾 昌俊 様

第12回 中国地区公立小中学校事務職員研究大会 兼 島根県学校事務セミナー

- 期 日 平成28年1月22日(金)
- 会 場 ビッグハート出雲
- 講 演 新潟大学大学院准教授 雲尾 周 様

研究大会の資料提供のお願い

島事研事務局では、今までの研究大会の資料集、研究集録や記録集をデータ化し、「島事研アーカイブス」の作成にとりかかっています。

しかし、第1回(1970/S45)～第9回(1978/S53)の9年間と、第26回(1995/H7)～第32回(2001/H13)の7年間のものがありません。

そこで、会員の皆さんに資料を提供いただけると幸いです。但し、データ化のために裁断してしまうので、完全に事務局に頂く形になります。資料提供をしていただける方は、事務局(広瀬中学校 梶岡・0854-32-2389)へ連絡をください。お待ちしております。

学校から出てみませんか？

学校事務職員の仕事は、給与・財務から地域連携など多岐に渡ります。そこで、皆さんに自己研鑽をしていただくため、西日本を中心に全事研加盟団体や文科省主催・共催の研修会の情報を集めてみました。興味のある研修がありましたら、是非参加してみてください！

◆ 第52回 三重県立小中学校事務研究大会

日時：平成27年10月15日（木）
時間未定
会場：三重県総合文化センター
（津市一身田上津部田1234）

◆ 平成27年度 愛知県公立小中学校研究大会

日時：平成27年10月23日（金）
9時40分～16時20分
会場：日本特殊陶業市民会館
（名古屋市中区金山1丁目5番1号）

◆ 第24回 大阪府公立学校事務研究大会

日時：平成27年11月13日（金）
10時00分～16時30分
会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター
（大阪府中央区大手前1-3-49）

◆ 「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム（山口会場）

日時：平成27年12月19日（土）
10時00分～
会場：防府市公会堂（防府市緑町1-9-1）

「つながり」

安来市立比田小学校 加藤 光太郎

私は現在、安来地区の研究を先輩事務職員の皆さんと一緒に進めています。普段一人で学校の中で仕事にあたって私にとって、たくさんの方とつながっているからこそ得られる大切なことを今感じているところです。

それは、当たり前のことですが、皆さん、日々の業務に真摯に取り組んでおられるということを改めて気付いたことです。

2年前、研究に取り組むとされた日から、私は研究について話を聞くのが精一杯でした。ところが、先輩の皆さんは、意見を取り交わされる中で、「どのようにしたら事務職員のためになるのか」「学校のためになるのか」と、常に日々の業務のことに置き換えながら考え、進められていました。経験の浅い私が、研究に加えてもらっていいのだろうかという疑問に思うこともありました。こうした先輩方とつながり、先輩のその姿を見るからこそ、日々の業務に真摯に取り組むことの大切さを改めて感じることができました。

私は先輩方と一つのことと一緒に取り組み、つながって向かわせてもらえることは、これからの人生の中で大きな学びとなります。経験年数関係なく仲間としてつながることで、たくさん学びを得ることの大切さを感じています。

今後つながる中でしっかりと学んでいきたいと思えます。

【編集後記】人権講演会を計画するなら、落語家さんがベストだなと聞いていてやっぱり思った。落語家さんは、話が上手い！ところどころ笑いを入れる。みんな笑いながら、人が幸せになる学びができる。笑いを通して学びができ、みんなが幸せな気持ちになれる人権講演会は最高である。(D・I)

